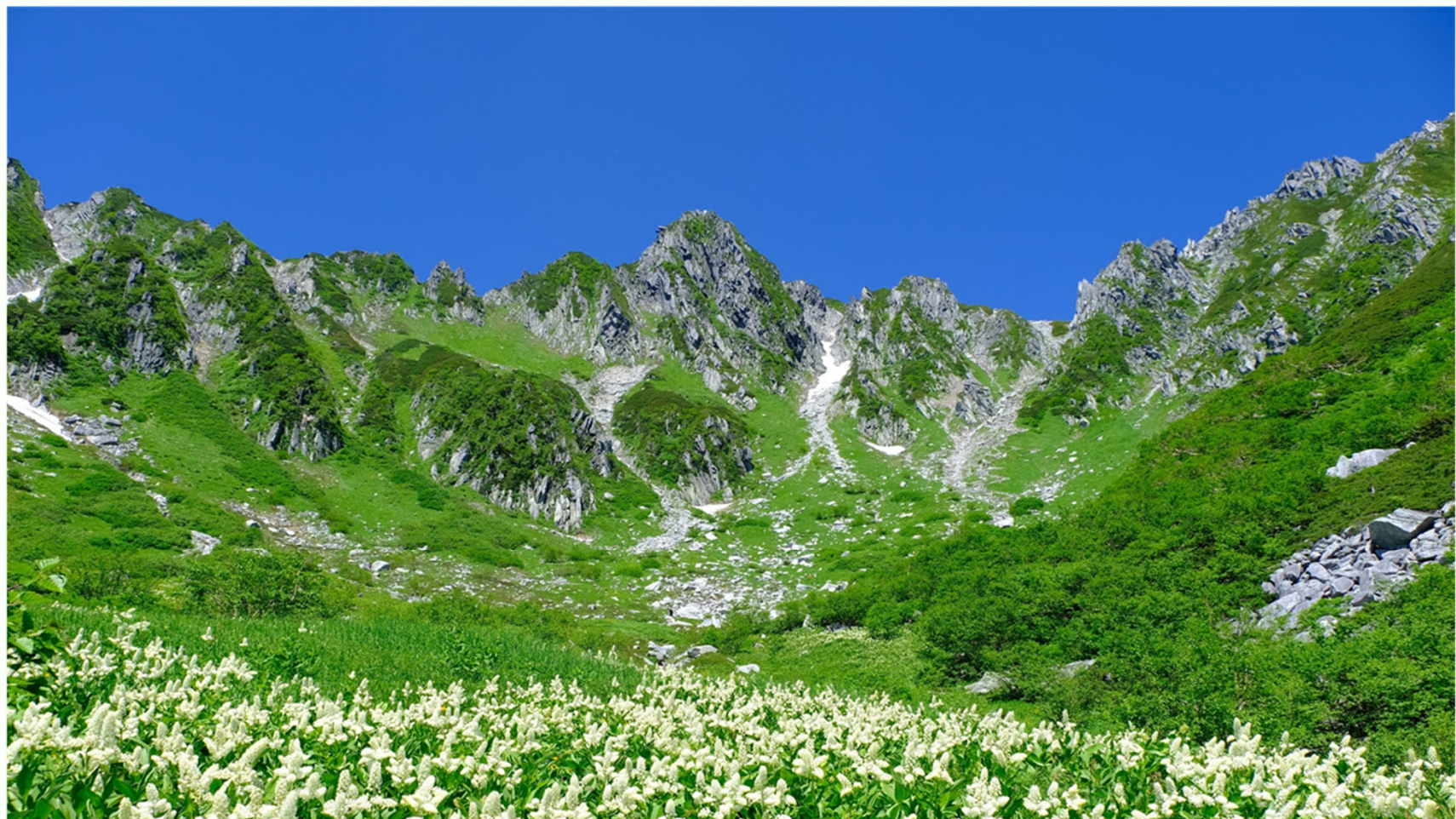


EBPM事例研究会 長野県駒ヶ根市の事例



長野県駒ヶ根市 産業部商工観光課工業係 玉木 昭平

駒ヶ根市の概要

基本情報

- 長野県南部に位置
- 人口30,843人(R8.1現在)
- 可住地45km²。ナチュラルコンパクトシティ

アクセス

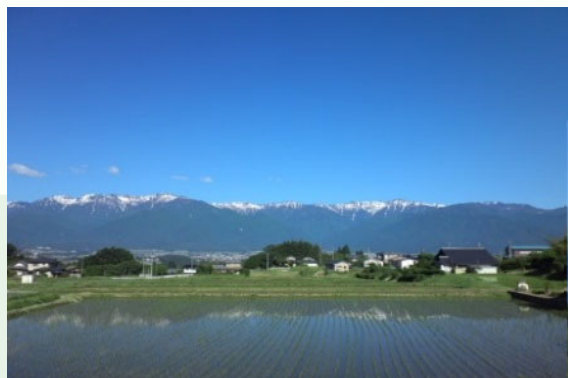
- 車で東京まで約3時間、名古屋まで2時間弱で往来可能
- リニア中央新幹線や三遠南信自動車道も開通予定

自然・環境

- アルプスがふたつ映えるまち
市街地からの眺望の良さや豊富な水資源
- 晴れの日が多く、自然災害(地震、洪水)も少ない

産業・観光

- 「ものづくりのまち」
製造業や建設業がさかんで古くから企業誘致も積極的に実施
- 中央アルプスを生かした観光地でもあり、年間100万人が来訪



EBPMブートキャンプ参加のきっかけ

- ✓ きっかけは、当時地域活性化企業人として日本IBMより派遣で来られていた方からのお声かけ。
- ✓ 当初は、「EBPM?」という感じで、言葉の意味すらわかりませんでした。

経験や感覚に基づく施策立案・意思決定

本来、正確な根拠に基づき思案すべきものであるが、勘や経験に依存

議論をするにあたり、共通言語がほしい

市民や事業者と議論する際に、お互いの「経験則」に基づき会話をするが客観的なデータがないために議論が平行線をたどることも

なんのためにデータを集めるか

バックカスティング的に、「結論ありき」で情報収集をしていないか
自分たちにとって都合のいい情報だけ収集していないか

EBPMブートキャンプの取組内容 | 行政課題

- ✓ 以下のような課題感があったものの、あくまで職員の感覚ベースのものであり、具体的な観光客の属性・消費行動の内容を含めた定量的な把握はできていませんでした。
- ✓ ブートキャンプでは現状の詳細・正確な把握のために幅広くデータの収集・分析を行い、効果的な打ち手の方向性について検討しました。

現状

- 駒ヶ根市は山岳観光(木曾駒ヶ岳)と高原観光(駒ヶ根高原)を中心に、首都圏・中京圏から夏季に多くの観光客が訪れている。
- 交通手段は自家用車やレンタカーがメイン。流入経路は中央自動車道の駒ヶ根ICが中心。
- JR飯田線の駒ヶ根駅周辺に位置する中心市街地エリアは、駒ヶ根ICから離れた場所にある。

課題

- 晴天時には観光客の多い高原エリア・山岳エリア(ロープウェイ)で待ち客が発生するなど、観光客のアクティブ率が低下している。
一方で、中心市街地への周遊はあまり見られず、エリアごとの平準化が達成されていない。
- 雨天時に誘客ができる観光スポットが駒ヶ根市内には乏しい。

EBPMブートキャンプの取組内容 | データの収集

- ✓ 分析に先んじて、「何のために何を分析するのか」を腰を据えて考えました。
- ✓ 必要なデータを取りに行く、という姿勢で、泥臭く関係者との調整に尽力しました。

分析に向けた活用方針の検討

取り組み開始時点では、明確に「この仮説を検証したい」といえるものではなく、むしろ「こういう課題があると感じているが、それは本当なのか？」ということをはっきりとしたいという思いが強かった。

日本総研から「仮説探索型」と「仮説検証型」の違いを説明され、まずは仮説の探索に取り組むこととなった。

POINT

何のために何を分析するのか、をしっかり事前に考える

収集するデータの検討

目的に照らしてデータを収集。

- ・もともと市所有の施設で取得していたが活用できていなかった無料Wi-Fiのアンケートデータに加え、
 - ・駒ヶ岳ロープウェイの乗降客数（民間保有）
 - ・クレジットカード決済データ（有償）
- を収集することに。

POINT

「手元にあるデータから検討」ではなく、「ほしいデータを取りに行く」

データの収集

無料Wi-Fiアンケートデータについては、委託先の事業者から容易に収集ができた。また、ブートキャンプの事業費を利用できたため、有償の決済データも入手できた。

また、駒ヶ岳ロープウェイの乗降客数データは、民間保有であったことから「地域の観光振興のために必要なデータであること」「個社に不利益が及ばないよう留意すること」を丁寧に説明、理解を得た上でご提供いただけた。

POINT

データ集めには泥臭い調整が必要な時も、丁寧に説明することが大事。

EBPMブートキャンプの取組内容 | (参考)データの収集

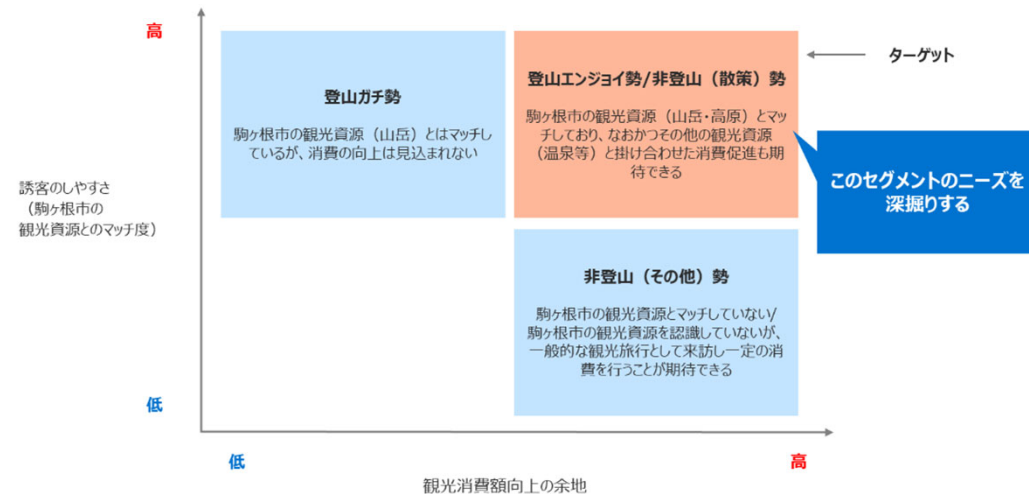
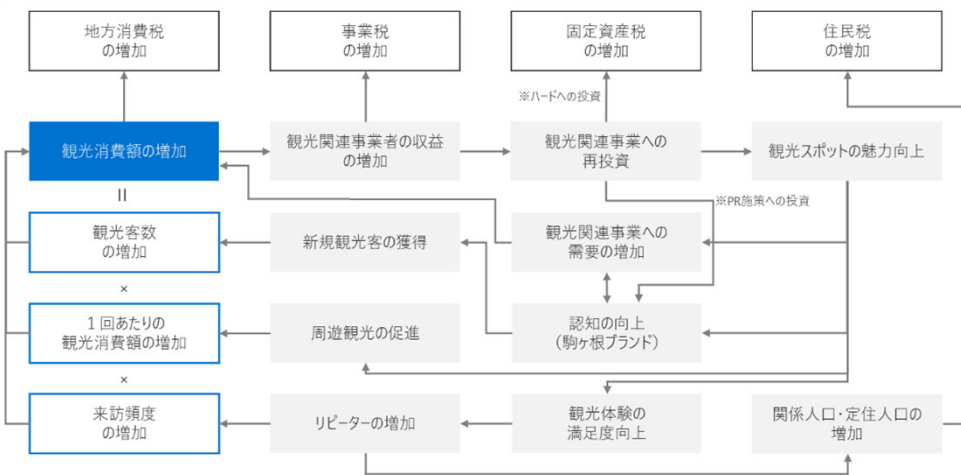
観光施策の効果の関連性をマッピング

どのデータがどの要素に関連しているのかを整理することで、「何のためのデータ分析か」が意識しやすくなりました。

市としての観光施策のターゲットを明確に

データ分析の質を高めるために、「観光施策によって誰にどうなってほしいのか」をすり合わせました。

観光関連施策による効果の関連性のイメージ



EBPMブートキャンプの取組内容 | データの分析

- ✓ あれもこれも分析することはできないので、最初に分析の方向性を設定しました。
- ✓ 日本総研から技術的な助言を受けながら、主体的に分析に取り組みました。

分析の計画づくり

収集したデータを基に、分析・可視化に取り組むことに。しかしながら、Excelの操作や分析のやり方からしっかりと学ばないと前に進めないと実感。

日本総研からデータ分析のレクチャーを受けつつ、「どのデータをどうやって分析するか」を検討した。

POINT

「なぜ分析したいか」がわかると、何を学ばばよいか見えてくる

重回帰分析の実施

計画に沿って分析を実行。様々な分析に取り組んだが、重回帰分析(ロープウェイの利用者に影響を与える要因の特定)は特に難易度が高く、何度も専門家の先生や日本総研と相談しながらトライした。彼らにイチからやってもらうこともできたが、「自分たちの学びにするためには自分たちで取り組んだ方がいい」と思い、粘り強く主体的に取り組んだ。
※事業者希望により分析結果は提示不可

POINT

自分で手を動かすことで、分析手法を深く理解できる

インタビューの実施

データを分析することで、当初の課題感が大きくずれていなかったことを確かめることができた。しかしながら、定量的なデータだけでは観光客の思いをどのくらい拾えているのかわからない…。専門家に相談したところ、「N1分析(ヘビーユーザー1人に詳しくインタビュー)」を紹介され、試してみることに。対象者探しに苦労したが、何とか実施。データ分析からわかったことを裏付けたり、それらをより深めた話を聞くことができた。

POINT

データとその他の情報を組み合わせると、より深い知見が得られる

ご清聴、ありがとうございました。